

| | | | | | |
|----------|--|----|-----------|----|-----|
| 氏名 | 嵐末 憲子 | 部署 | 社会福祉子ども学科 | 職名 | 准教授 |
| 研究分野 | 介護福祉・生活支援・専門職連携 | | | | |
| 学位 | 修士(社会福祉学) | | | | |
| 学歴 | 1988年熊本大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程、2000年日本社会事業大学大学院社会福祉学 研究科 | | | | |
| 経歴 | 2003年 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 講師、2012年 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 准教授 | | | | |
| 所属学会(役職) | 日本介護福祉学会(評議員・査読委員)、日本社会福祉学会、日本社会福祉教育学会 | | | | |

【2018年度実績】

| 1. 研究業績 | | | | | |
|-----------------|--|---------|---|--|---------|
| | 著作・論文・学会発表等の名称 | 単著・共著の別 | (1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了 ページ (3)学会名、開催都市 | (1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印) | 発行・発表年月 |
| (1) 著作 | | | | | |
| | ソーシャルワーク記録(改定版) 第6章第3節「教育訓練用記録」 | 共著 | 誠信書房;177-187 | 副田あけみ・小嶋章 吾編、嵐末憲子、他 19名 | 2018.11 |
| | コミュニケーション技術 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 第3巻 第1章「利用者・家族とのコミュニケーション」 第2章「利用者の機能に応じたコミュニ ケーション」 | 共著 | 長寿社会開発センター; 7-22、29-39、61-76 | 介護職員関係養成研 修テキスト作成委員 会 嵐末憲子、小嶋章 吾、他9名 | 2019.2 |
| | 高齢者に対する支援と介護保険制度(第 6版) 第11章「介護の概念や対象」 | 共著 | 中央法規出版;304- 337、342-348 | 社会福祉士養成講座 編集委員会 嵐末憲子、他30名 | 2019.2 |
| 3 | 高齢期の生活変動と社会的方策(放送大 学テキスト:ラジオ用) 第2章「高齢期における心身の変化と対応 ～自助・互助を中心に」、第10章「要介護 高齢者の生活支援～介護保険のサービ ス体系と展開」、第11章「要介護高齢者の 生活支援～認知症と看取りを中心に」 | 共著 | 放送大学教育振興会; 27-51、220-242、243- 261 | 山田 知子編) 嵐末憲子、山本美 香、片桐由喜(章立て 順) | 2019.3 |
| (2) 論文 | | | | | |
| 1 | IoT活用と生活支援記録法(F-SOAIP)搭 載の認知症対応型人工知能KCIS- BPSD発症予測に基づくケアの最適化と 効率化の実証研究- | 共著 | 地域ケアリング、20(8); 90-97 | 羽田野政治、嵐末憲 子、小嶋章吾 | 2018.8 |
| 2 | 多職種の実践過程を可視化するF-SOAIP による人材育成の提案-「生活支援記録 法ワークシート【初回・導入・OJT版】」の 意義と多領域での実践報告- | 共著 | 地域ケアリング、20(13); 80-89 | 嵐末 憲子、小嶋章 吾、菊地月香、幡野 敏彦、田中真佐江 | 2018.12 |
| 3 | 経過記録・実施記録のイノベーション 生 活支援記録法(F-SOAIP)～ケアの見える 化・情報共有・OJTのために～ | 共著 | 介護人材、15(6); 48-56 | 嵐末 憲子・小嶋 章 吾 | 2019.1 |
| 4 | 連載1回目 生活支援記録法の導入と実 践効果 生活支援記録法の導入1年後の 職員の意識調査と新人育成への活用 | 共著 | 介護人材、16(1); 18-26 | 川村扶実、監修:嵐 末憲子、小嶋章吾 | 2019.3 |
| (3) 学会発表 | | | | | |
| 1 | 自主企画13 総務省IoTサービス創出支 援事業～認知症対応型IoTサービス～ | 共著 | 第19回日本認知症ケ ア学会 | 羽田野政治・小嶋 章吾・嵐末 憲子 | 2018.6 |
| 2 | 地域包括ケア実現に向けたIPW に資する 生活支援記録法の提案 | 共著 | 第11回日本保健医療福 祉連携教育学会学術集 会 | 嵐末 憲子・小嶋 章 吾 | 2018.8 |
| (4) その他 | | | | | |

| | | | | |
|---------------------|---|----------------|--|---------------|
| 1 | 該当なし | | | |
| 2. 競争的資金等の研究 | | | | |
| | 競争的資金等の名称 | | 研究名、研究代表者・研究分担者の別 | 研究期間 |
| 1 | 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C) | | 地域包括ケア時代のソーシャルケア発信型IPWに好循環を生む生活支援記録法実証研究(研究代表) | 2015.4～2019.3 |
| 2 | 総務省:平成30年度予算 情報通信技術利活用事業費補助金(地域IoT実装推進事業) | | ビックデータ活用による認知症対応型IoTサービス(研究分担) | 2018.8～2019.3 |
| 3. 教育業績 | | | | |
| | 講義・演習・実習・論文指導等の名称 | 期間 | 概要(教育内容・方法等において工夫した点) | |
| (1) 講義 | | | | |
| 1 | 介護福祉概論:科目責任者 | 2018.4～2018.9 | 執筆したテキストを採用しているため、実践面や所属研究会の研究の成果を講義に還元した。 | |
| 2 | 社会福祉概論 | 2018.6 | テキストが古いため、視聴覚教材を活用する等して理解が深まるよう配慮した。 | |
| 3 | IPW論(大学院) | 2018.7 | リフレクションと葛藤について、学術的情報を盛り込むと同時に、実践と学びを統合できるよう演習的時間を設けて工夫した。 | |
| (2) 演習 | | | | |
| 1 | ケアサービス演習:科目責任者 | 2018.10～2019.3 | 実習Ⅰにも有用となるよう内容を工夫する。認知症AIの共同研究者であるゲストを招聘し、教員や他学科学学生の参加も得た。履修者が40名以上となったが、目標が達成できるように務めた。 | |
| 2 | ソーシャルワーク演習Ⅰ | 2018.10～2019.3 | 学生の学びが今後の演習・実習・実践に活かせるよう、リフレクションに留意した。 | |
| 3 | ソーシャルワーク演習Ⅳ | 2018.12～2019.3 | 実習・演習の統合的学びとなるよう、担当した3グループの学生が、フィールド調査、情報分析や資料作成などを支援した。 | |
| 4 | 社会福祉専門演習Ⅰ | 2018.4～2018.9 | 学生(3名)が関心を高め、SW分野のテーマを探求できるよう、また多面的な理解ができるよう指導した。 | |
| 5 | 社会福祉専門演習Ⅲ | 2018.4～2018.9 | 卒業研究を進める過程において、ソーシャルワーク演習や社会調査の学びを活用しながら、学生(2名)を指導した。 | |
| 6 | 社会福祉専門演習Ⅳ | 2018.10～2019.3 | 卒業研究の論文執筆・プレゼンを通じ、ソーシャルワーク演習や卒業後に役立てられるよう、学生(2名)を指導した。 | |
| 7 | IPW演習(2開講):科目責任者 | 2018.10～2019.3 | 科目責任者として、IPW論での学びをふまえ、IPW実習に活かせるよう、IPW実習①で担当した4年生のオリへの参加を実現した。 | |
| (3) 実習 | | | | |
| 1 | ソーシャルワーク実習Ⅰ | 2019.2～2019.3 | 5カ所、10名の学生が、実習課題と関連づけ実習時に多様な体験ができるよう、実習指導者と連携しながら巡回等での指導を丁寧に行った。 | |
| 2 | ソーシャルワーク実習指導Ⅰ | 2018.10～2019.3 | 5カ所、10名の学生が、各々の進路をふまえた実習課題を立て、主体的に事前学習ができるよう支援した。 | |
| 3 | ソーシャルワーク実習指導Ⅱ | 2018.4～2018.6 | 演習における先進的教育方法を実習指導の振り返りに活用した、グループ・個別指導をおこなう。 | |
| 4 | IPW実習 | 2018.8～2018.9 | 4大学の学生を対象とし、実習指導者と連携しながら、IPW実習としては高い目標を達成できるよう務めた。また、本学学生にはIPW演習への協力について調整を図った。 | |
| (4) 論文指導 | | | | |
| 1 | 学士課程 | 2018.4～2019.3 | 2名の学生がフィールド調査(倫理審査要)を通じて、問題解決プロセスを探求できるよう指導した。 | |
| 2 | 修士課程 | 2018.4～2019.3 | 副指導:1名 フィールド調査の準備ができるよう支援した。 | |
| (5) その他 | | | | |
| 1 | カリキュラム検討委員会 | 2018.4～2019.3 | ツリーマップ等を確認し、新カリキュラムに関する情報収集を行った。 | |
| 2 | オープンキャンパスにて模擬講義 | 2018.6 | 生活支援記録法の4コマ漫画を2場面作成し、相談室壁に貼付し、他学科学学生からの質問等にも対応する。 | |

| 4. 社会貢献活動 | | | | |
|-----------------|--|-----------------------------------|--|----------|
| (1) 講演会、研修会等の講師 | | | | |
| | 講演会、研修会等の名称 | 主催 | 講演、研修等のテーマ | 開催年月 |
| 1 | 実践過程を可視化できる生活支援記録法 (F-SOAIP) | 神奈川県 横浜市 善人会グループ | 地域包括ケア・ICT時代の医療・介護連携ツール | 2018.6 |
| 2 | 越谷市 医療と介護の連携研修 | 越谷市 医療と介護の連携窓口 | 医療と介護の連携を促進する経過記録法 実践過程を可視化できる生活支援記録法 F-SOAIP～地域包括ケア・ICT時代の医療・介護連携ツール～ | 2018.6 |
| 3 | 主任介護支援専門員更新研修受講要件研修 | 山口県介護支援専門員協会 | 専門的対人援助職の思考過程を可視化する生活支援記録法 | 2018.7～9 |
| 4 | 福祉サービス利用援助事業第2回生活支援員定例会研修 | 三郷市社会福祉協議会 | 生活支援の見える化生活支援記録法 F-SOAIP～気づきや情報共有を促し、記録を支援に活用～ | 2018.8 |
| 5 | 介護支援専門員の経過記録～現場に役立つ生活支援記録法を学ぶ～ | 大阪介護支援専門員協会堺ブロック | 多様な効果をもたらす生活支援記録法(F-SOAIP)～ミクロ(個別)・メゾ(機関・集団)・マクロ(地域)～ | 2018.8 |
| 6 | 2018年度とちぎソーシャルケアサービス従事者協議会公開セミナー 地域包括ケアシステムの構築に向けて多機関多職種連携を促進する経過記録法 | とちぎソーシャルケアサービス従事者協議会 | 生活支援記録法(F-SOAIP)の普及と展望～ミクロ(個別)・メゾ(機関・集団)・マクロ(地域)の観点～ | 2018.8 |
| 7 | 総務省地域IoT実装推進事業(ビックデータ活用による認知症対応型IoTサービス) おおたわら総合在宅ケアセンター | 特定非営利活動法人ASP・SaaS・IoT クラウドコンソーシアム | 認知症ケアの実践過程を可視化する生活支援記録法の活用 | 2018.9 |
| 8 | 生活支援記録法の研修 | 千葉県 生活クラブ風の村 | 包括的支援やICT時代の多職種連携に好循環をもたらす生活支援記録法(F-SOAIP)～ミクロ・メゾ・マクロ・グローバル～ | 2018.9 |
| 9 | 生活支援記録法講師養成講座 | 生活支援記録法(F-SOAIP)実践教育研究所 | 生活支援記録法ワークシート【初回・OJT版】を活用した人材育成 | 2018.9 |
| 10 | 平成30年度埼玉県介護支援専門員レベルアップ研修 | 埼玉県高齢介護課 | 実践過程を可視化できる生活支援記録法(F-SOAIP)～ミクロ・メゾ・マクロレベルでの活用を期待して～ | 2018.9 |
| 11 | 総務省地域IoT実装推進事業(ビックデータ活用による認知症対応型IoTサービス) おおたわら総合在宅ケアセンター | 特定非営利活動法人ASP・SaaS・IoT クラウドコンソーシアム | F-SOAIPの活用～生活支援記録法ワークシート【初回・OJT版】によるリフレクション～ | 2018.10 |
| 12 | 福祉人材育成講座 | 那珂川町生活支援推進協議会 | 支援記録の実践方法～多様な効果をもたらす生活支援記録法(F-SOAIP)～ | 2018.10 |
| 13 | 社会福祉援助技術研修 | 千葉県社会福祉協議会 | 実践過程の見える化や多職種連携を実現する生活支援記録法 | 2018.11 |
| 14 | 企画研修(ケアマネジメントスキルアップコース) | 京都府介護支援専門員会 | 実践過程を可視化できる「生活支援記録法」F-SOAIP～ミクロ・メゾ・マクロレベルでの活用を期待して～ | 2019.2 |
| 15 | 支援経過記録の記述力向上研修会 | 福岡県介護支援専門員協会 | 介護支援専門員の思考過程を可視化する生活支援記録法について | 2019.3 |
| 16 | 共催:桜十字病院 | 熊本市高齢者支援センターささえりあ鮑田 | 実践過程の見える化や多職種連携を実現する生活支援記録法研修 | 2019.3 |

| (2) 国、自治体、財団法人等における委員等 | | | |
|---------------------------|--|---|--------------|
| | 国、自治体、財団法人等の名称 | 委員等の名称 | 任期 |
| 1 | 日本介護福祉学会 | 評議員・査読委員 | 2015～現在 |
| 2 | とちぎソーシャルケアサービス従事者協議会 | 企画委員 | 2013～現在 |
| 3 | 埼玉県大規模小売店舗立地審議会 | 委員等の名称 | 2018～現在 |
| (3) ジャーナリズムでの発言 | | | |
| | メディア等の名称 | 内容 | 年月 |
| 1 | BS531:放送大学 ラジオ放送 | 寫末憲子「高齢者を支える人材養成の課題」/科目責任 山田知子「高齢期の生活と福祉」第9回(45分) | 3回/2018～2019 |
| 2 | BS531:放送大学 ラジオ放送 | 寫末憲子「地域包括ケアシステムへの展望ー介護保険や認知症ケアの課題をふまえて」/科目責任 山田知子「高齢期の生活と福祉」第10回(45分) | 3回/2018～2019 |
| 3 | BS531:放送大学 ラジオ放送 | 寫末憲子「高齢者を支える人材養成の課題」/科目責任 山田知子「高齢期の生活と福祉」第11回(45分) | 3回/2018～2019 |
| 5. 学内運営(委員会委員) | | | |
| 1 | 研究推進委員 | | |
| 2 | 「専門職連携・協働」推進事業専門部会:総合課程(葛藤・リフレクション) | | |
| 3 | 推地域専門職連携推進部会:入間西入間東地域(担当) | | |
| 4 | 保健医療福祉科目担当者会 | | |
| 5 | 丸山一郎記念研究・活動奨励賞運営委員会 | | |
| 6 | 学科内カリキュラム検討会 | | |
| 6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの) | | | |
| | 受賞名 | 主催 | 受賞年月 |
| 1 | 第11回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 ベストポスター賞 地域包括ケア実現に向けたIPWに資する生活支援記録法の提案 | 日本保健医療福祉連携教育学会 | 2018.8 |
| 7. 特許の保有状況 | | | |
| | 特許名 | 特許番号 | 登録年月 |
| 1 | 2018-104424:商願 生活支援記録法 | | 出願中 |
| 2 | 2018-104425:商願:F-SOAIIP | | 出願中 |
| 8. 特記事項 | | | |
| 1 | 「総務省 身近なIoTプロジェクト第8回会合 平成29年度当初予算事業成果報告資料」(2018年6月)、「厚生労働省 第4回保健医療分野AI開発加速コンソーシアム AIを活用した認知症対応型IoTサービス実証事業報告」(2019年1月)に「認知症対応型KCIS」が紹介している「介護記録」に、文部省科学研究費補助金により開発した「生活支援記録法」が採用されている。 | | |